

釣れ釣れなるままに

2008年思い出の釣行記 PART. 3

# 記録がバユ

## 鹿島釣狂



本日の釣果アブラコ3、カジカ2。これでも入賞にはほど遠かった。

## 岩見沢釣遊会第3回大会

☆開催日	平成20年6月15日			
☆開催場所	笛舞港～東洋港			
☆入釣場所	東歌別			
☆釣果	アブラコ	400	mm	3
	カジカ	363	mm	2
	重量	450	0g	
	合計点数	1213	点(2魚種身長+5匹重量)	
☆成績	6位			

### 予定のやりくり

職務上の会議が岩見沢であった。そのついでといっちは何だが、嵐会長が営む鮮魚店に立ち寄った。嵐氏はお得意さんの割烹に注文の品を届けに行っていたため不在だったが、品のいい奥様がお相手してくれてお爺ちゃんの大会成績を気にしているお孫さんの話にまで発展してしまった。間もなく嵐氏が戻ってきたので、彼が優勝した第1回大会の写真を添えて、第3回大会は出席できそうもないことを伝えた。

娘が結婚するという。それで、お相手のご両親とお食事会を旭川で計画するので私の予定を聞いてきた。週末は予定がびっしりと組まれており6月の遅い週末にしてもらおうよう伝えた。特に6月14日は釣り大会なので、その日は絶対にはずすようにと言い含めておいた。しかし、どうしても相手方の都合が付かなくて大会出発日に重なってしまったと済まなそうに言う。他のことなら何が何でもほっぽり出して釣り大会に行くところだが、可愛い娘のためなら致し方がない。大会は泣く泣く欠席することにして、事務局に連絡したのだ。

その後、そのお食事会が酒席を伴わない真っ昼間だと分かり、急遽旭川から戻ってきて大会に参加することが出来そうな模様である。女房が自分の結納の時に着た振袖を娘に着せるといふ。今から30年以上も前のものなので、掛け襟が色あせており、その付け替えのために慣れない手つきで針を持っている。お食事会会場は旭川ターミナルホテルだったが、酒も飲めずに手持ち無沙汰である。形だけのお食事会を懇ろに済まして、トンボ返りで奈井江に立ち寄り、事前に仕度してあった荷物を積み込み岩見沢の集合場所へと向かった。そして、私が到着したと同時に釣りバスが到着してそのままバスの人となった。

仲間の話によると、2週間前の釣り大会は、歌別や留吉、菊水が絶好調だったという。そして、その好調さは徐々に襟裳岬の方へと移動しているらしいので、仲間のほとんどは西東洋から先へと釣り場を決めたようだ。手前の日勝大和で堀内氏、高橋氏が下りた。昨年の実績から気になるところである。

### アカハラのエサが絶好調

前野氏と一緒に東歌別で下りた。前野氏は北海道名人会の金井氏から勧められたと言うことで、彼が推奨するならと期待が膨らむ。東歌別バス停から下った舟揚場では釣り人3名が竿を出していた。日付が変更して前野氏と共にその隣の溝で荷を下ろした。

私は、お食事会の関係でエサの準備がままならなく、カツオやアカハラを切り分けながらのエサ付けとなり、竿入れに手間取ってしまった。そして、今日はどのエサがよいかとそれぞれにアカハラ、カツオ、サンマ、イソメ、イカゴロを付けて、1本を遠投、2本を舟揚場の照明が届かない防潮堤際に近投した。

振り込んですぐに、グックと竿先が入った。防潮堤の影になった本当に浅いところに打ち込んだ竿である。満潮時の今でも石の一つ一つが手に取るように見えるところだ。カジカがダブル（33cm、25cm）で上がった。エサはアカハラとイソメである。隣の竿にもカジカ35cmがきた。こいつもアカハラに食いついていた。



暗い内は東歌別舟揚場の溝でカジカが出る。

前野氏は「釣狂には煽られてしまうな」と言って右の方の舟揚場に移動してしまった。前野氏が移動したので、その前方にある波の立った盤の切れ目に向かって仕掛けを振り込んだ。それに一回り大きいカジカが来た。エサはやはりアカハラだった。私は何度かアカハラを使ったことはあるが、その成果はあまり芳しいものではなかった。本日の付けエサにアカハラが増えていく。そして、イカゴロに26cmアカハラが食いついた。今は大事な

嫁であるが、少ないアカハラのエサに代わっていくのだろう。そしてやはりそのアカハラのエサにカジカが来て、2魚種5匹が早々に揃ってしまった。

前野氏がハゴトコしか釣れないともう一度私の隣りに戻ってきた。そこへ、アカハラ28cmがきた。少し嫁が大きくなった。今度は遠投にカンカイ29cmが来た。これもエサはアカハラである。又、嫁が少し大きくなった。遠投でハゴトコ30cmがきた。エサはやはりアカハラである。またまた嫁が少し大きくなった。ドンと大きいアブラコを嫁にしたいものだと大ぶりに切ったアカハラを付けて遠投する。前野氏が今度は左の方に移動していた。遠投にカジカ33cm、26cmが来た。エサはやはりアカハラである。

3時半、私もアブラコを狙って移動することにした。まだ潮が高く、岩場の先端までは出て行けないので途中の岩に3度に分けて荷物を運んだ。それから、もう一度、ストックを突きながら3度に分けて岩場の先端に荷物を運んだ。リュックがまだ重いので慎重に歩みを進めた。4時半、ようやく竿を設置し終わった。それにハゴトコ33cmが来た。少し嫁が大きくなった。その後はハゴトコばかりが竿を揺らす。アブラコはいない。7時半になっても駄目なら移動しようと思う。



今年の東歌別は昆布が少ないように思える。杭が立った離れ岩手前に茂ったホンダワラの密林の中からアブラコが出る。

移動のために竿を片付け始めた。最後の1本に手を掛けるとゴツゴツと頭を振るアブラ

コ独特の突っ込みをみせる。昆布根の中から顔を出したのは赤黒い35cm程のアブラコだった。ようやく潮が動き始めたのか、それともコマセが効いてきたのかと移動できなくなり、最後までここで粘ることにした。その後アブラコ40cm、38cmが上がりこれからだと思っている矢先に潮が込んできて足元を濡らし始めたのでやむなく竿を仕舞うことになった。

国道までの坂道をテクテクと上っていく途中で携帯がなった。案外と皆、釣りが悪く早くに連絡を取りながらバスが出発したのかもしれないぞと思いながら、電話の音を無視して一生懸命歩みを進める。前野氏が出迎えてくれ、型のいいアブラコを揃えたのだが嫁がいないとぼやいている。そして、ご親切にも私の竿ケースを運んでいただいたのだが、普段は持ち歩かない4本の竿とリール、さらにはステンレスの三脚まで入れていたので、師匠に対して重くて申し訳ないと思う。

## 審査結果

バス停について息を整えてから携帯を覗くと堀内氏からだった。かけ直すと、特大のアブラコを釣ったと豪語する。しかし、嫁のアカハラが小さくて頼りないとも言う。一緒に入った高橋氏が大アブラコに大カジカを揃えて優勝だろうとも言う。

バスに乗り込むと皆活気に満ちていた。油駒や西東洋、坂岸が特によかったようだ。審査会場で私の獲物を早めに提出すると、ハウともヘエともいうため息が洩れてささやかなねぎらいの言葉をいただく。しかし、後から提出された皆さんの獲物は、私の比ではなく、大物がゾロゾロ、ゾロゾロとでてくる。食事に来た他の釣り会のメンバーもその光景を覗いては驚嘆の唸りを上げていく。大会成績は次のようになったが、高いレベルの闘いとなった。

### 審査結果

優 勝	西川紘一	1 6 6 2 点 (カジカ 486mm+アブラコ440mm+7360g)	坂 岸
準 優 勝	堀内正博	1 5 1 5 点 (アブラコ545mm+アカハラ310mm+6600g)	日勝大和
3 位	嵐 光博	1 4 4 2 点 (カジカ 440mm+アブラコ406mm+5960g)	西 東 洋
4 位	吉井 博	1 4 2 0 点 (アブラコ466mm+カジカ 390mm+5640g)	西 東 洋
5 位	高橋昭吾	1 3 7 1 点 (アブラコ470mm+カジカ 387mm+5140g)	日勝大和

私は1213点と健闘したのだが、入賞には一歩及ばず7位だった。5kg以上釣り上げた会員が5名も出たのだ。やはり上には上がいるものだ。更にその上に行く釣行を夢見ながらバスの人となった。



釣遊会第3回大会入賞者

上段左より 3 位：吉井 博氏、4 位：岩本 満氏、5 位：高橋昭吾氏  
 下段左より 身長優勝：堀内正博氏、総合優勝：西川紘一氏、準優勝：嵐 光博氏

訂正

審査結果

優勝	西川紘一	1 6 6 2 点 (カジカ 486mm+アブラコ440mm+7360g)	坂 岸
準優勝	嵐 光博	1 4 4 2 点 (カジカ 440mm+アブラコ406mm+5960g)	西 東 洋
3 位	吉井 博	1 4 2 0 点 (アブラコ466mm+カジカ 390mm+5640g)	西 東 洋
4 位	岩本 満		
5 位	高橋昭吾	1 3 7 1 点 (アブラコ470mm+カジカ 387mm+5140g)	日勝大和
身長優勝	堀内正博	1 5 1 5 点 (アブラコ545mm+アカハラ310mm+6600g)	日勝大和



総合優勝の西川紘一氏とその獲物たち 岩見沢釣遊会歴代最高点記録を樹立して皆さんから称賛の拍手を浴びる。



身長優勝の堀内正博氏とその獲物アブラコ 54.5 cm 岩見沢釣遊会歴代最身長記録樹立